

「山ぼうし」と私

44期 福村 岳代

「山ぼうしの会」は、視覚障害者と晴眼者（障害のない人）が、共に山登りを楽しむ登山クラブです。

「視覚障害者が山登り？そんなことが可能なの？」

これが、私の山ぼうしの会を初めて知った時の感想です。山のあの景色があるから、どんなに辛くても、人は山に登れるのだ、と思っていた私にとって、眼の見えない人（以下視障者）が山に登るのは疑問でしたし、あの山の景色が見られないのは正直かわいそうだとも思っていました。

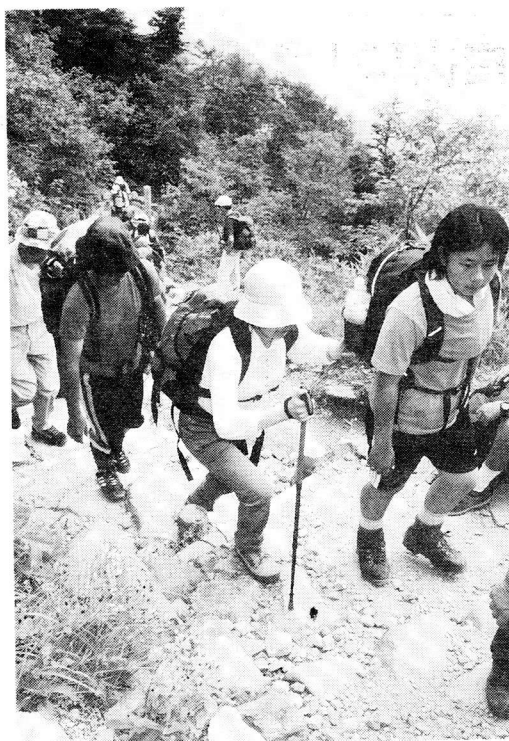
しかし、山には美しい景色以外にも、鳥のさえずりに耳をかたむけたり、新鮮な空気を胸いっぱい吸ったり、やわらかい土の感触を楽しんだり、山でしか味わえないものがたくさんあります。これらの山の素晴らしさを私は、忘れていたのかもしれませんが、目で見えるものでしか山を楽しんでないのでは？ということ、山ぼうしの活動を通して気付かされました。

また、山ぼうしの仲間達と一緒に山歩きをすることで、自分の足元に注意するようになりました。というのは、サポーターと視障者が安全に登るためには、常にサポーターは、視障者に周りの状況を正確に伝える必要があります。

例えば、普段は何気なく跨いでいる石や木の根なども、

「左前、石の段差あり20cmアップ、次すぐ右前、木の根あり10cmアップして跨いで下さい」など。

先にも述べましたが、私は山の景色ばかりに気をとられ自分の足元に広がっている世界のこ



となど、考えたこともありませんでした。自分の足元で地面に這うように成長した木の幹や、周りの草に埋もれながらも必死で生きている小さな花などに目を向けることで、また一つ山の楽しみ方が増えた気がします。

山ぼうしは会が発足してから、まだ1年半しか経っていません。その中で、晴眼者と視障者が共に知恵を出し合い、試行錯誤しながらやってきました。

しかし、まだまだサポート面にしても、安全面にしても、考えねばならない問題があるのは事実です。

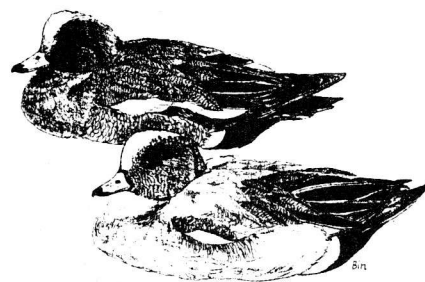
けれども、山に登りたいと思っている視障者と、そんな視障者と一緒に山を楽しみたいと思っている晴眼者がいる限り、山ぼうしの会は続いていくのだと思います。私はそんな彼らと山に登る事で、さらに山の魅力にとりつかれてしまいそうです。

（2001年度は、富山・吉峰グリーンパーク、倶利伽羅スノーハイク、キゴ山、大嵐山、医王山、口三方岳、砂御前山、白山南竜ケ馬場、大倉岳、鷲走ケ岳などの山に登りました。この中にはスノーシューを履いての活動や、富山の登山クラブとの交流登山もありました。）

【山に登る前の打ち合せ】

（視覚障害者の方については写真使用をご了解頂いています。）





ヒドリガモ(上)と
アヒ(下)

(福村さん、変な原稿があとについて、ゴメンナサイ。仙人池で見かけた時から書こうと思っていました。

どうか、さらに掘り下げて「山ぼうし」にかかわって下さい。)

IN TROUBLE

15期 舟田 節子

学研受験英語教材に、次のような話が載っている。

霧のロンドンでは、バスもタクシーも走れなくなる。ロンドン生まれで、急ぎの用のあったM氏もタクシーをgot off. His officeへ歩いて急ぐが、he lost his way. そこへ

"May I help you if you are in trouble?"
その男はついてくるようにM氏に言い、彼らは目的のビルにat last辿り着く。

"You know London better than I do."
と感心したM氏が

"How did you find your way in the fog?"
と聞くと

"It's quite easy for me to find my way in the fog," said the man, "because I can't see anything with my eyes."

文法本位の「見え見え」事例であった。即ち視覚障害者の方が、正確に地理を把握していたという、いかにも今風福祉好みの内容である。

なんでこの事例から書いたかと言うと、私はこの夏、仙人池コースで、視覚障害者の一行に出会ったからである。最近ことに山溪などには載っているが、現場を見たのは初めてだった。

「なんでこんなやばいコースに？」
の疑念に続いて、そのスピードに驚いた。少し離れてついていたギャル感覚のサポーターに、
「すごいですねえ」と言ったら、

「ええ、彼はベテランですから」
の答えが返ってきた。

なるほど、前者のザックに手を掛け進む彼は、瞬時にその動きを、寸分たがわず模倣していた。後ろから彼のザックを押す男の押し具合が、さらに上下左右と、その幅をフォローしているようであった。梯子の所ではさすがに細かい指示が出されていたが、二人三脚を連想するような、ちょっとしたぎこちなさを保ちながらもスピード感ある歩きだった。

彼らを追越したのは、仙人温泉～阿曾原間であった。私達はその朝は、剣御前から下りてきており、抜きつ抜かれつの同行者達も、仙人温泉でほとんどが行動を終了していた。ほぼ最終組ともいえる私達より後ということで、やや心配したが、かろうじて「明るい」うちに彼らも到着した。当日は冬期物置小屋も利用するほどの満員だったが、トイレから何からサポーターの世話になる彼の姿は目立っていた。

翌朝、もちろん彼らは早出をしており、私達は再度彼らを日電歩道上で、抜いた。それこそ「眼もくらむ」絶壁の歩道の途中で…。

仙人池に映る裏剣が絶景、その三段紅葉が絶賛…と、「見えなければ話にならぬ」あのコースを、躓けば奈落の底のあんなコースを、彼が「希望」したというのだろうか？

あんなスピードを出すこと、出せることを、「ベテラン」というのだろうか？

それこそ、日常生活の中において、視覚に頼らない正確な地理を獲得しているという話の方ならわかる。初めてで、危険で、何より視覚情報が必要な場所で…どんなに情報をもらったとしても真正正銘の「メクラ歩き」にしかならないのに…。

「白山なら眼をつぶってでも」ほどの「ベテラン」が室堂のそばで穴を掘っていたとか、あ



るいは凍死していたとか、ホワイトアウトの怖さはよく言われることだ。同じコースを歩き尽くして、なぞれる程を「ベテラン」ならまだわかるが、サポーターの動きを正確に模倣することが、山において、「ベテラン」と称されているのだろうか？スピードをあげる程、称賛されているのだろうか？

もちろんその視覚障害者は、サポーターの動きに全身全霊を傾けており、垣間見た私には張り詰めた緊張感のみが感じられた。それでも、踏破したら、「着いたぞ！」と言われたら…満足できるのだろうか？「晴眼者すら危険なコースを、よく踏破した」とサポーター達は褒め、視覚障害者の記録として、どこぞへ送るのだろうか？そう、彼らは「いいこと」を、苦勞してやり遂げたのだ。でも…私は「自己実現」がすり替えられているような気がする。

私の思う視覚障害者の「自己実現」は、日常生活が自立できること…他人に頼らなくても、思った時に思ったことがやれること。そして、視覚障害者ならこそその光れること…鍛えられた聴覚、触角、記憶力などの能力で、晴眼者には到底真似られない域にまで達すること…ではないかと思う。そんな「自己実現」を晴眼者はサポートし、環境を整えていくべきと思う。

何度回数を重ねても、100%他人に依存しなければならぬこと、自力で積み重ねていけないことは、本当の「自己実現」にならないと考える。

視覚障害者の山記録、さらには視覚障害者が「心眼」で撮ったという写真集も発刊されている。彼は、どんな写真が撮れたか「確かめたこと」、どの写真が選定されて、どんな写真集になったか「確かめたこと」があるのだろうか？

すなわち、話題を狙って、あれよ、あれよで乗せている側がいる。

とうとうエベレストに登った視覚障害者も出てきた。百名山をやってみたいと、あの「写真家」も「夢」を語り、それが「多くの視覚障害者への勇気になる」とも語っている。（あるいは、「語らせている」？）

たしかに、障害にめげていない明るい話題ではある。でも、「山の語り部」では、多くの方が「山は自己責任の世界だ」と答えていた。初めから自己責任の持てない人が、自力でそこから脱出もできない人が、「素晴らしいから」「登りたいから」で、山に入り込む…？

晴眼者の中高年登山が無責任の批判を浴びる一方で、こちらは「福祉」の御旗があるからだろうか？無謀極まりないのに、称賛を受け、ニュースバリューを持ってしまう。

世の中は「何でもあり」になり、何事も「はじめ」がなくなり、ぼやかすほど「善人」で「ものわかりよし」とされる。

晴眼者にしたところで、遭難したくて遭難した人はいないのだ。当然のような事故がおきた時、どの法律が、「自己責任をもてるはずのない人達が山に登る」行為について、誰に責任ありと裁くのだろう。

今この国は
「王様は裸だ！」を誰も言わない。

○ 1 小屋作業計画書

<日程> 2001/9/18, 19, 20 非常9/21

<目的> 高三郎登山道の整備

ベルクハイムの掃除

<行き先> 高三郎、ベルクハイム

<日程> 車 3P (2h)

1 日目 角間＝犀川ダムーベルクハイム

* 犀川ダム最大待機 14:00

打切り 16:00

合計 3P (2h)

W5P

W4P

2 日目 ベルクハイムー高三郎PーBH

起床 5:00

ピークチェックタイム 14:00

打切り 16:00

合計 W9P

3P

車

3 日目 BHー犀川ダム＝角間

最大作業時間 14:00

打切り 16:00

<作業内容>

- ・ 1 日目は小屋及びその周辺
- ・ 2 日目はピークまで行ってから、下りながら作業をする
- ・ 3 日目は小屋周辺

<行動条件>

強雨、強風でないこと

<欠員>

各パーティ (L + S L + 医療 + 2)

<メンバー>

Aパーティ L 久原 SL 角田 CL 谷村 竹内
古田 伊藤 加藤

Bパーティ L 山本 SL・CSL 西 深作 渡
日向 池田 岩田

Cパーティ L 日野 SL 石原 松山 森本
敵田 松本 荻田

(角田、渡は当日欠席)

小屋作業を終えて

CL 44期 谷村 一成

今年度の小屋作業は、昨年度までと違い、旧道だけでなく、新道の整備も行う事にした。

旧道の整備は過去5年でほぼ終了しているため、そろそろ新道にも手をつけようと思ったからである。そこで私は旧道から整備を始め、高三郎ピークをとり、新道を下りながら整備してこう考えた。

しかし、今となっては、その考えは少し無理なものであったと思う。

一日目はまず、ダム沿いの道を行き、ベルクハイムに着いた。そしてベルクハイムの周辺の作業をしてから、全体を二つに分けて、それぞれ新道・旧道の整備を、時間の許す限りした。この日の夜は小屋の中で盛り上がり、士気も上がった。

二日目、当初の私の計画どおり、旧道→ピーク→新道のコースを行く事で出発した。

旧道の整備はほとんどされたおり、要所要所で整備はしたが、そうでなくても、思っていた



日野

荻田 石原 竹内 池田 敵田 伊藤
日向 岩田

森本 谷村

松山 松本 加藤 古田

山本 久原

西

(撮影 深作)

より歩き易かった。来年は整備の必要がないくらいにはしたと思う。

その後ピークをとり、新道を下る。新道は思っていた以上に荒れていた。木の枝があらちちから伸びていて、先が見えない。しかし、みんな頑張り整備していった。それでも、そこそこ下ったあたりから、下りのきつさで思うように進まなくなった。枝を切りすぎて捕まるものがなくなり、下りにくくなってしまったのである。

そうしているうちに時間がなくなり、作業を中断させた。あたりは刻々と暗くなり、私は焦っていた。

ベルクハイムに帰ってきた頃には真っ暗で、みんな疲れ切っているのが分かる。そんな中、私は無茶な計画を立ててしまったもんだと気付いた。冷静に考えると、新道と旧道を両方とも整備するのは、日程的に無理なのである。また、荒れ具合を考えると、新道のみでも良かったのではないと思う。

無茶な計画に付き合ってくれたみんなには感謝したい。そして来年からは新道の整備に力を入れて欲しい。

今回CLをやってみて、今までCLをやってきた方の苦労が判った。私にとって、今年度の小屋作業はいろんな意味で思い出に残った。



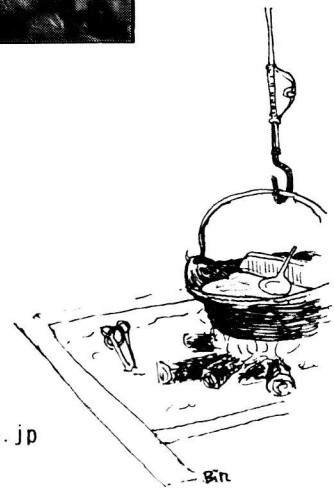
日野 池田 石原 森本 荻田 松山 松本 竹内
深作 日向 古田 敵田 伊藤
山本 谷村 西 岩田 加藤

(撮影 久原)

2001年度現役名簿

4回生(43期)

小倉 亮	法・法	090-2831-1686	aas18910@par.odn.ne.jp
920-1152	金沢市田上2-59-202	076-263-5476	
418-0022	静岡県富士宮市小泉215-1-A3	0544-27-6794	
阿納 真弓	文・人間	090-1396-3967	
920-0941	金沢市旭町1-2-31-2E	076-232-6301	
819-0005	福岡県福岡市西区内浜2-33-1-101	092-881-5194	
加藤 菜就	工・物化	090-9442-9232	
920-0944	金沢市三口新町1-15-5	076-261-3458	
674-0057	兵庫県明石市大久保高丘5-21-43	078-935-8658	
西脇 幹雄	工・機械	090-8498-9887	
921-8036	金沢市弥生1-26-5北暎寮	076-241-6573	
451-0012	愛知県名古屋市西区稻生町3-52	052-522-8211	



2001/01/08

■冬合宿と打ち上げ会で考えたこと

ワングル顧問の前田です。冬合宿・荒島岳は病人が出たため、1日目途中で打ち切りテント設営、2日目出発地点に下山となりました。ラッセルの交代の仕方なども昨年よりうまくりましたが、降りたての深い雪のためトレースを確保するのに難渋したこと、メンバーが計画書より1名減って2パーティ13名と余裕がなかったことも原因です。病人は、風邪からきた自家中毒症ではないかと思われます。食餌療法(蛋白質・脂肪類は禁止、嘔吐分を補充する水分を梅干入りの白湯で摂取など)と睡眠で元気を回復しましたので。

27日は予定を作っていなかったもので、打ち上げ会にも顔出ししました。消化不良というか燃焼不足ということもあって、いろいろ話も聞きました。ワングルも二極化の傾向にあり、一方では、南ア11泊12日の合宿に代表されるようなチャレンジ精神がある反面、同好サークル的なもの以上に無理をしないという雰囲気も強いということです。PW計画もなかったわけではなく、参加者が規定人数(5名)に達せず、流れたものもかなりあったということです。そのため、はなから「面倒くさい」PWとはせず、自分たちで装備を揃えて出かけるケースもかなりあるようです。

私の意見は、(1)新トレ、合宿トレ・本番という行事は、ワングルの基本的な生活技術やマナーを体得する場であり共通の基盤であるが、それをベースにしたPWこそワングルの華である、(2)PWに参加することは特に義務づけられはしないが、部員としてPWへの支援と連帯は求められる、(3)5名という欠員条件は、春休み犀奥など人が減多に訪れず救援を求めることの困難な地域などは別として、携帯電話などの普及した今日では見なおしてもいいのではないか、(4)4回生になれば事実上引退している現状は改めるべきであって、就職活動等での中断が終われば4回生こそが積極的にPW計画を出すべきだ(大半がワングル行事に加わっていない4回生の「追い出しコンパ」に出る気はしない)、ということです。文系では、後期試験後に3回生ゼミの合宿を企画するのも困難になっています。民間企業の求人(青田刈り)日程が早まっているせいですが、公務員試験組みや(少数の)大学院進学組はまだ先のことで意見が衝突します。理系では、大学・教室がかわる率が高いのと大学院進学が多いので、ワングルの春「合宿」前に隠居ということはないでしょう。問題なのは、就職活動が「中断」として捉え、位置づけられていないことです。

2001/8/23

■夏合宿&PW

ワングル顧問の前田です。現役諸君の活動ぶりをお知らせするのがずいぶん中断してしまいました。今年は北アルプス2、南アルプスと北海道各1、計4パーティが合宿に出かけ、無事下山の連絡ももらいました。北海道は例年とは異なったルートを取り、台地歩きのはずが高低差も大きく、藪漕ぎまであったようです。

北アルプス野郎パーティ(rising sun party)は、顧問の語る「船窪物語」にめげず後立と裏銀を繋いできました。鎖、はしご、アップダウンの連続に「二度と行きたくない」と言っていますが、その内にまた出かけることでしょう。さすがにくたびれた模様で、双六から下りて

きました。

12日の長い日程を組んでいた南ア組は、3日短縮で予定コースをほぼ完歩してきました。福ヶ岳パーティからは詳しく聞く機会がなかったので、聞いておきます。

PW計画書も2通出てきました。屋久島と白馬一朝日です。私はと言えば、7月中旬に教職員組合法文分会の立山縦走で足慣らしをしたものの、それから1カ月以上ももたった8月18日「きたぐに」で糸魚川乗換え、猿倉から入山、鐘温泉の誘惑を蹴って天狗山荘。豪華な夕食。翌日、白馬山荘のコーヒーは準備中、雪倉岳で腹いっぱい冷水の予定もはずれ、がっくり。17:35到着の朝日小屋では夕食代わりに入善の花火大会を見ながらビール、シーヴラス・リーガルとチーズ、サラミ。3日目、頑張って蓮華温泉に昼過ぎ着いたものの、盆過ぎでバスは夕方までなし。この日温泉泊まりとなる団体さんを羨ましく思いながら、湯上りビールで我慢して糸魚川へ。

翌日、大学に出てきて、屋久島PWの計画書に出会い、さらに本日(8/22)白馬尻一蓮華の行事届けに押印したような次第です。昨年は残雪の多い大日岳で高山植物も咲き残っていましたが、今年は、せっかくの種類も多いお花畑なのに、時期がずれていたのが残念でした。無理してでも7月に、と考えた次第です。

2001/10/11

14日千葉大学での学会に出かけますので、Berghelm酒場は失礼します。

晴天が予報された10月上旬の3連休、路線バスを利用して別当出合から観光新道を登り(10/6)、室堂に泊って、チブ利尾根を市ノ瀬に下り、最終シャトルバスで「ほうらい祭り」の鶴来町に戻ってきました(10/7)。数年前、岩間側に下りスーパー林道からの車で大渋滞に遭遇。待ち合わせの時間に遅れる旨の電話をかけるため一里野まで自動車をかき分け、追い抜き歩いたことを思い出し、昔、開学記念日に下った別山・市ノ瀬道を選んだ次第です。連休中日のチブ利避難小屋はさぞや窮屈に夜を過ごすことになるだろうと思う登山道の繁盛ぶりでした。室堂のプレハブ小屋も10月初めに撤去され、自炊にはビジターセンターの休憩室が用意されていました。外観上はほぼ完成だが、本格的に稼働するのは2002年開山式からになるだろう、とは室堂で出会った県関係者の説明でした。仮に知事も臨席となるとTVも取材で登ってくるし、ワングルにも(アルバイトの)声がかかってくる、とは私の期待です。

さて、妙高のPW計画書が届けられ、無事下山の電話も留守番電話に入っていました。

2001/12/24

冬山合宿計画書をお届けします。ローテーションからいくと今年は法恩寺・経ヶ岳の番ですが、利賀村の金剛堂山(1637m)という計画です。上回生が少ないのと、どっちみちラッセルで団子状態になるということから、1パーティ15人(十顧問)という編成になったそうです。

富山の山には人形山(もう少しで頂上というところから引き返し)、僧ヶ岳(寒波と重なり日程短縮、途中打ち切り)と(私の参加した)冬山合宿ではピークを踏んだ記憶がありませんが、今回はどうなるでしょうか。

2001 春合宿

[目的] 春山の経験、雪山技術の修得

[山城] 北アルプス後立山連峰 唐松岳

[日程] 3月21日(水)～ 3泊4日 予1 非1

[行程]

1日目 金沢 ===== 八方尾根スキー場 ++(ゴンドラリフト)++ 八方池山荘 ---- 八方池(幕営)

2日目 雪上訓練

3日目 八方池 ---- 唐松山荘 ---- 唐松岳 ---- 八方池(幕営)

4日目 八方池 ---- 八方池山荘 ++(ゴンドラリフト)++ 白馬山麓

[メンバー]

L 西脇幹雄(工3) s L 加藤菜就(工-物化3) 矢田部 桂(理-物3)

小倉 亮(法3) 阿納真弓(文3) 久原宗仁(文-史2)

吉森幸世(文-人間2) 山本資治(工-人機2) 松山文枝(医-保健1)

[連絡]

清水健作 090-9760-1387 谷上 望

1・2年山

行

1・2年山行 比良班

[日程] 3月27日～29日 予備1

[目的地] 滋賀県比良山系

[目的] 比良山系で琵琶湖の大観を楽しむ。

新入生が入部するまでに3回生がいない1・2回生だけの山行を行う。新時代への準備。

[行程]

1日目 金沢駅 ===== 北小松駅 ---- 比良元気村 (幕営)

2日目 比良元気村 ---- ヤケ山 ---- 釈迦岳 ---- 八雲キャンプ場 (幕営)

3日目 八雲キャンプ場 ---- 比良ロッジ ---- カモシカ台 ---- イン谷口 ---- 比良駅===== 金沢駅

[メンバー]

L 山本資治(工-人機2) s L 久原宗仁(文-史2) 西 大輔(工-人機2)

松山文枝(医-保健1) 森本達也(工-機機1)

[連絡]

加藤菜就(工-物化3) 076-261-3458 090-9442-9232

谷村一成(工-人機2) 090-7033-7253

1・2年山行 奥高尾

[日程] 4月2日～3日 1泊2日 予備1

[目的] 1・2年生の親睦を深め、それぞれの学年の役割を自覚し、自主的に行動すること

[行程]

1日目 金沢大学 ===== 湯涌温泉 ---- 分岐 ---- 前高尾 ---- 分岐 ---- 奥高尾(幕営)

2日目 奥高尾 ---- 日ノ峰 ---- 奥高尾 ---- 湯涌温泉

[メンバー]

L 日野鋼貴(文-人間2) s L 福村岳代(教-障害2) 谷村一成(工-人機2) 角田幸久(経2)

竹内雅幸(法1)

[連絡]

小倉 亮 076-263-5476 谷上 望 076-232-5648

1・2年山行 ロード

[日程] 3月27日～30日 3泊4日 非常1

[目的] 鍾乳洞観光

[行程]

1日目 金沢駅 ===== 郡上八幡 ---- 大滝鍾乳洞 ---- 郡上八幡(幕営)

2日目 郡上八幡 ---- 郡上八幡大鍾乳洞 ---- 和良村(幕営)

3日目 和良村 ---- 金山町 ---- 下呂(幕営)

4日目 下呂駅 ---- 金沢駅

[メンバー]

L 吉森幸世(文-人間2) 河原一美(教-2) 石原 諭(経-2) 中川拓哉(理-化) 竹内雅幸(法1)

[連絡]

矢田部 桂 232-7867 加藤菜就 090-9442-9232

GW後立山P

W

[日程] 5月4日～6日 2泊3日 予備日 5月7日 非常日5月8日

[目的地] 後立山連峰 扇沢 ←→ 鹿島槍

[目的] GWを後立山で満喫する。顧問と交流する。雪山技術を習得する。

[行程]

5月4日 金沢駅 ==== 信濃大町 ==== 扇沢 ---- 種池山荘(幕営)
5日 種池山荘 ---- 爺ヶ岳 ---- 冷池山荘 ---- 鹿島槍ヶ岳
---- 冷池山荘 ---- 爺ヶ岳 ---- 種池山荘(幕営)
6日 種池山荘 ---- 扇沢 ==== 信濃大町 ==== 金沢駅

[メンバー]

谷村一成(工-人機 3) 竹内雅幸(法2) 松山文枝(医-保2) 森本達也(工-機械2) 深作亮太(工-人機2) 前田達男(法-顧問)

[連絡]

(主) 山本資治(工-人機3) 090-9760-3424 076-263-7706 (補) 西 大輔(工-人機) 090-9442-2393

——屋 久 島 P. W

<日程> 2001年9月5日～10日 予備 9月11, 12, 13日 非常日9月14日

<目的地> 屋久島宮之浦岳

<目的> 本土では味わうことのできない島の大自然を満喫する。日本百名山の最南端かつ九州最高峰の宮之浦岳を登る。

<行程>

1日目(9/5)

金沢 ### 大阪 ### 天王寺・阿部野橋 == (夜行バス「トロピカルライナー」) ==

2日目(9/6)

=== 西鹿児島 ++++ 水族館・鹿児島北埠頭 ～～(フェリー)～～宮之浦 === 海楽園キャンピ場 △1(幕営)

3日目(9/7)

△1 --- 楠川 --- 白谷山荘 --- 辻峠 --- 楠川分かれ --- 大株歩道入口 --- ウィルソン株
--- 縄文杉 --- 旧高塚小屋 △2 (幕営)

4日目(9/8)

△2 --- 新高塚小屋 --- 第2展望台 --- 焼野三叉路 --- 永田岳(往復) --- 宮之浦岳 ---

栗生岳 --- 投石岩屋 --- 黒味岳分山 --- 花之江河 --- 淀川小屋 △3 (幕営)

5日目(9/9)

△3 --- 鯛之川出合 --- ハイキングコース分岐 --- 尾之間温泉 === 宮之浦

<連絡>

矢田部 桂 090-1394-7688 西 大輔 090-9442-2393

<メンバー>

L 松山文枝(医-保健2) s L 医療 竹内雅幸(法-公シス2) 伊藤亜希子(理-地球1) 加藤友佳(文-文1) W

——後立山連峰 P. W

[目的地] 朝日岳、雪倉岳、白馬岳

[目的] 夏休みを後立山連峰で満喫する。楽しい山行二するとともに部員の交流を深める。
自然の美しさに触れてみまっし。

[日程] 9月2日～5日

[コース]

1日目 金沢 ### 糸魚川 ##### 白馬 --- 猿倉 ---- 白馬尻▲(幕営)

2日目 白馬尻---(大雪溪)---葱平---村営頂上宿舎▲

3日目 村営頂上宿舎---白馬岳---雪倉岳---水平道---朝日小屋▲

4日目 朝日小屋---朝日岳---五輪尾根---白高地沢---兵馬ノ平---蓮華温泉 === 平岩 ### 糸魚川 ### 金沢

[サブコース]

大雨等のため白高地沢の仮設橋流失の場合、三国境---白馬大池---蓮華温泉のルートで下山。

[メンバー]

L 深作亮太(工-人機2) s L 谷村一成(工-人機3) 谷上 望(文-人間4)
吉森幸世(文-人間3) 古田弥生(教-学校2) 池田幸平(工-人機1)
松本瑞恵(経-経1) 岩田奈穂子(工-物化1)

[連絡員]

矢田部 桂 090-1394-7688

——夏合宿&合宿トレ

A 01' 福ヶ岳パーティ in 北アルプス

[目的] 山の素晴らしさと厳しさを満足いくまでお腹いっぱい味わってくる。

[日程] 7月31日(火)～8月8日(水) 8泊9日 予備3日 非常1日

[行程]

<1日目> 金沢 ==== 富山 ==== 折立 ---- 太郎平小屋 ---- 薬師峠 (幕営)
 <2日目> 薬師峠 ---- 薬師岳 ---- 太郎平小屋 ---- 薬師沢小屋 (幕営)
 <3日目> 薬師沢小屋 ---- アラスカ庭園 ---- 雲ノ平山荘 ---- 雲の平キャンプ場 (幕営)
 <4日目> 雲の平キャンプ場 ---- 祖父庭園 ---- 黒部源流渡渉点 ---- 三俣山荘
 ---- 三俣蓮華岳 ---- 双六岳 ---- 双六小屋 (幕営)
 <5日目> 双六小屋 ---- 縦沢岳 ---- 千丈乗越 ---- 槍ヶ岳山荘 (幕営)
 <6日目> 槍ヶ岳山荘 ---- 槍ヶ岳 (往復) ---- ヒュッテ大槍 ---- 水俣乗越 ---- ヒュッテ西岳 (幕営)
 <7日目> ヒュッテ西岳 ---- 大天井岳 ---- 横通岳南肩 ---- 常念小屋 (幕営)
 <8日目> 常念小屋 ---- 常念岳 ---- 蝶ヶ岳三角点 ---- 蝶ヶ岳ヒュッテ (幕営)
 <9日目> 蝶ヶ岳ヒュッテ ---- 長堀山 ---- 徳沢 ---- 上高地バスターミナル
 [メンバー]
 L 福村岳代 (教-障教3) sL 日野鋼資 (文-人間3) 森本達也 (工-機械2)
 古田弥生 (教-学校教育2) 伊藤亜希子 (理-地球1) 岩田奈穂子 (工-物化1)
 [連絡員]
 矢田部 桂 (理-物3) 090-1394-7688
 奥野岳志 090-1314-6306

2001 第1回トレーニング山行

[日程] 6月23日(土)、24日(日) 1泊2日 (非常1)
 [山城] 口三方岳
 [目的] 夏合宿に向けて体力と技術の向上をはかり、安全な登山を目指す。
 [行程] <1日目>
 金沢大学 == (車) == 千丈温泉 ---- テン場 (幕営)
 <2日目>
 テン場 ---- 登山口 ---- 口三方岳 ---- 内尾 == (車) == 金沢大学
 歩荷 ピークまで 男25kg~30kg 以降、自由。各自の体力を考えて設定。
 [メンバー]
 L 日野鋼資 (文-人間3) sL 福村岳代 (教-障教3) 医療 森本達也 (工-機械2)
 古田弥生 (教-学校教育2) 伊藤亜希子 (理-地球1) 岩田奈穂子 (工-物化1)
 山下隼人 (理-計算)

2001年福ヶ岳Party 第2回トレーニング山行

[日程] 7月7日(土)、8日(日) 1泊2日 (非常1)
 [山城] 白山
 [目的] 夏山に向け、山の技術・知識・体力をつける。歩荷は男30kg、女2kg。
 [行程] <1日目>
 金沢大学 == (車) == 別当出合 ---- 甚之助ヒュッテ --- 南竜ヶ馬場 (幕営)
 <2日目>
 幕営地 ---- 室堂 ---- 御前峰 ---- 大汝峰 ---- 室堂 ---- 黒ボコ岩 ---- 殿ヶ池ヒュッテ ----
 別当出合 == (車) == 金沢
 [メンバー]
 L 森本達也 (工-機械2) sL 福村岳代 (教-障教3) 医療 古田弥生 (教-学校教育2)
 伊藤亜希子 (理-地球1) 岩田奈穂子 (工-物化1) 山下隼人 (理-計算)
 B O1' ライジングサンParty 夏合宿
 [日程] 8月10日~20日 (10泊11日)
 [山城] 北アルプス (白馬→槍ヶ岳)
 [目的] 槍(鑓)を3つとる。One for All, All for Oneの精神を身につける。
 [行程]
 <1日目> 金沢 ==== 糸魚川 ==== 白馬大池 ---- 大池山荘 (幕営)
 <2日目> 大池山荘 ---- 白馬岳 ---- 白馬鑓ヶ岳 ---- 天狗山荘 (幕営)
 <3日目> 天狗山荘 ---- 唐松岳 ---- 五竜山荘 (幕営)
 <4日目> 五竜山荘 ---- 五竜岳 ---- キレット小屋 ---- 鹿島槍岳 ---- 冷池山荘 (幕営)
 <5日目> 冷池山荘 ---- 爺岳 ---- 種池山荘 (幕営)
 <6日目> 種池山荘 ---- 針の木岳 ---- 針の木小屋 (幕営)
 <7日目> 針の木小屋 ---- 船窪乗越 ---- 烏帽子岳 ---- 烏帽子小屋 (幕営)
 <8日目> 烏帽子小屋 ---- 野口五郎小屋 (幕営) ---- 野口五郎岳 (往復)
 <9日目> 野口五郎小屋 ---- 水晶小屋 ---- 水晶岳 (往復) ---- 三俣山荘 (幕営) ---- 三俣蓮華岳 (往復)
 <10日目> 三俣山荘 ---- 双六岳 ---- 双六小屋 ---- 千丈乗越 ---- 槍ヶ岳山荘 (幕営)
 <11日目> 槍ヶ岳山荘 ---- 槍ヶ岳 (往復) ---- 新穂高温泉
 [メンバー]
 L 久原宗仁 (文-史3) sL 石原 諭 (経-経3) 角田幸久 (経-経3)
 竹内雅幸 (法-公シス2) 池田幸平 (工-人機1)
 [連絡員]

矢田部 桂 (理-物3) 090-1394-7688
奥野岳志 090-1314-6306

2001年第1回トレーニング山行

<目的> 体力向上

<山城> 雨飾山

<日程> 6月30日(土)、7月1日(日) 非常1

<行程> 1日目 金沢大学 == (車) == 雨飾キャンプ場 (幕営)

2日目 雨飾キャンプ場 ---- 荒菅沢 ---- 笹平 ---- 雨飾山頂 ---- 雨飾キャンプ場
== (車) ==

金沢大学

[メンバー]

L 石原 諭 (経-経3) sL 久原宗仁 (文-史3) 角田幸久 (経-経3)

竹内雅幸 (法-公シス2) 池田幸平 (工-人機1)

※ 雨天のため登頂ならず。

2001年夏合宿 北アルプス野郎Party 第2回トレーニング山行「白山」

[日程] 7月14日(土)、15日(日) 1泊2日 (非常1)

[山城] 白山

[目的] 夏合宿に向けてのオープン戦第2回戦。体力・技術・精神力を身につけるとともに、夏合宿へのモチベーションを高める。※トレーニングを目的とするため、歩荷は35kg以上ならOKとする(室堂まで)。

[行程] <1日目>
金沢大学 == (車) == 別当出合駐車場 ---- 甚之助ヒュッテ --- 南竜ヶ馬場 (幕営)

<2日目>
幕営地 -- (展望歩道) -- 室堂 ---- 御前峰 ---- 大汝峰 ---- 室堂 ---- 黒ボコ岩 ----
殿ヶ池ヒュッテ ---- 別当出合登山口 == (車) == 金沢

[メンバー]

L 竹内雅幸 (法-公シス2) sL 久原宗仁 (文-史3) 角田幸久 (経-経3)

石原 諭 (経-経3) 池田幸平 (工-人機1)

C 2001年夏合宿 南アルプス<山本山>Party

[目的] ワンゲルのメイン山行である夏合宿を楽しむ。

南アルプスの厳しい自然に鍛えられる。上回生は下に技術を伝え、下は吸収する。

[日程] 8月7日(火)~8月18日(土) 11泊12日

[目的地] 鳳凰三山→甲斐駒・仙丈→白峰三山

[行程]

1日目 金沢駅 ==== 糸魚川 ==== 松本 ==== 甲府 (幕営)

2日目 甲府 ==== 夜叉神峠登山口 --- 夜叉神峠 --- 大崖頭山 ---- 苺平 ---- 南御室小屋 (幕営)

3日目 南御室小屋 --- 薬師峠 ---- 観音岳 --- 鳳凰小屋 (幕営)

4日目 鳳凰小屋 --- 地藏岳 --- 白鳳峠 ---- 広河原峠 ---- 早川尾根小屋 (幕営)

5日目 早川尾根小屋 --- アサヨ峰 --- 栗沢山 --- 仙水小屋 (幕営)

6日目 仙水小屋 --- 仙水峠 --- 駒津峰 ---- 甲斐駒ヶ岳 (往復) ---- 北沢長衛小屋 (幕営)

7日目 北沢長衛小屋 (幕営) --- 大滝五合目 --- 小仙丈岳 ---- 仙丈岳 (往復)

8日目 北沢長衛小屋 --- 野呂川出合 --- 広河原 --- 白根御池小屋 (幕営)

9日目 白根御池小屋 --- 二俣 --- 八本歯のコル --- 吊尾根分岐 --- 北岳 (往復) --- 北岳山荘 (幕営)

10日目 北岳山荘 --- 間ノ岳 --- 農鳥小屋 (幕営)

11日目 農鳥小屋 --- 西農鳥岳 --- 農鳥岳 ---- 大門沢小屋 (幕営)

12日目 大門沢小屋 --- 奈良田温泉 == (バス) == 身延駅

[メンバー]

L 山本資治 (工-人機3) sL 谷村一成 (工-人機3) 医療 河原一美 (教-美術3)

松山文枝 (医-保健2) 松本瑞恵 (経-経1) 荻田真憲 (工-土建1)

[連絡員]

奥野岳志 090-1314-6306 加藤菜就 (工-物化3) 090-9442-9232

01' 第1回トレーニング山行

[日程] 6月23日(土)、24日(日) 1泊2日 (非常1)

[山城] 口三方岳

[目的] 夏合宿に向けて体力と技術の向上をはかる。

[行程] <1日目>

金沢大学 == (車) == 千丈温泉 (内尾) (幕営)

<2日目>

内尾 ---- 口三方登山口 ---- 分岐 ---- 口三方岳 ---- 登山口 ---- 内尾 == (車) == 金沢大学

歩荷 ピークまで 男25kg 女20kg

[メンバー]

L 谷村一成(工-人機3) sL 山本資治(工-人機3) 河原一美(教-学校3)
日向弘幸(医-保健2) 松本瑞恵(経-経1) 森 篤士(理-化1)

2001年 第2回トレーニング山行「白山」

[日程] 7月14日(土)、15日(日) 1泊2日 (非常1)

[山城] 白山

[目的] 夏合宿に向け、技術・体力のレベルアップを図る。白山の景観を楽しみながら登る。

[行程] <1日目>

金沢大学 == (車) == 別当出合駐車場 ---- 甚之助ヒュッテ --- 南竜ケ馬場 (幕営)

<2日目>

幕営地 -- (エコーライン) -- 室堂 ---- 御前峰 ---- 大汝峰 ---- 室堂 ---- 黒ボコ岩 ----

殿ヶ池ヒュッテ ---- 別当出合登山口 == (車) == 金沢

[メンバー]

L 松山文枝(医-保健2) sL 谷村一成(工-人機3) 医療 日野鋼資(文-人間3)
吉森幸世(文-人間3) 松本瑞恵(経-経1) 荻田真憲(工-土建1)
古田弥生(教-学校2) 渡 洋子(医-保健2) Lucie Zakova

※ 歩荷 男28kg, 女22kg。歩荷水は基本的に室堂まで持っていくこととする。

D 2001年夏合宿 北海道Party (デイリー西) —— 北海道はええのお～

[行先] 北海道・大雪山

[日程] 2001年8月5日～15日 6泊7日 予備3 非常1 (8/5, 8/6, 8/14, 8/15は移動日)

[目的] ・北海道の大自然を体全体で味わう。

・リス、シカ、キタキツネ、ヒグマなどの動物と戯れる。時には格闘する。

・とりあえずケガのない楽しい山行をする。

[コース]

-1日目 金沢====福井====敦賀====東舞鶴----舞鶴港~~~~(新日本海フェリー)

0日目 ~~~~~海上~~~~~

1日目 ~~~~~小樽港----小樽築港====札幌====旭川====美瑛====白金温泉----国設白金野営場 (幕営)

2日目 白金野営場 ---- 望岳台(十勝岳登山口) ---- 雲の平分岐 ---- 十勝岳 ----

上ホロ避難小屋(幕営) ---- 上ホロカメトック山 ---- 上富良野岳(往復)

3日目 上ホロ避難小屋 ---- 十勝岳 ---- 美瑛岳 ---- 美瑛岳分岐 ---- 美瑛富士分岐 ----

美瑛富士(往復) ---- 美瑛富士キャンプ地(幕営)

4日目 美瑛富士キャンプ地 ---- ベベツ岳 ---- オプタテシケ山 ---- 双子池キャンプ地(幕営)

5日目 双子池C地 ---- コスマヌプリ ---- ツリガネ山 ---- 三山台 ---- 南沼キャンプ指定地(幕営)

6日目 南沼C地 ---- トムラウシ山 ---- ひさご沼キャンプ指定地(幕営)

7日目 ひさご沼 ---- 化雲岳 ---- 第一公園 ---- 滝見台 ---- 天人峽温泉 ==== 旭川駅

[メンバー]

L 西 大輔(工-人機3) sL 吉森幸世(文-人間3) 医療 深作亮太(工-人機2)
日向弘幸(医-保健2) 加藤夕佳(文-文1) 敵田 聡子(薬-製薬1)

[連絡員]

奥野岳志 090-1314-6306 加藤菜就(工-物化3) 090-9442-9232

2001年夏合宿 北海道Party (デイリー西) 第1回トレーニング山行

[日程] 6月23日(土)、24日(日) 1泊2日 (非常1)

[山城] 口三方岳

[目的] 夏合宿に向けて体力と技術の向上をはかる。

[行程] <1日目>

金沢大学 == (車) == 千丈温泉 ---- 口三方登山口 (幕営)

<2日目>

幕営地 ---- 口三方岳 ---- 幕営地 ---- 千丈温泉 == (車) == 金沢大学

歩荷 ピークまで 男27kg 女20kg

[メンバー] L 吉森幸世(文-人間3) sL 西 大輔(工-人機3) 医療 松山文枝(医-保健2)
深作亮太(工-人機2) 渡 洋子(医-保健2) 加藤夕佳(文-文1)

敵田 聡子(薬-製薬1) 荻田真憲(工-土建1)

[連絡員]

山本資治 090-9760-3424

谷村一成 090-7033-7253

2001年夏合宿 北海道Party (デイリー西) 第2回トレーニング山行

[日程] 7月7日(土)、8日(日) 1泊2日 (非常1)

[山城] 白山

[目的] 夏合宿に向けて体力と技術の向上をはかる。Lをおいていかないよう、常時後に気を配る。

とりあえず、皆で楽しい山行にする。(歩荷は男子28kg、女子20kgとする)

[行程] <1日目>

金沢 == (車) == 別当出合 ---- 甚之助ヒュッテ --- 南竜ケ馬場 (幕営)

<2日目>

幕営地 -- (エコーライン) -- 室堂 ---- 御前峰 ---- 大汝峰 ---- 室堂 ---- 黒ボコ岩 ----

殿ケ池ヒュッテ ---- 別当出合 == (車) == 金沢

[メンバー] L 日向弘幸 (医-保健2) sL 西 大輔 (工-人機3) 医療 深作亮太 (工-人機2)

加藤夕佳 (文-文1) 飯田 聡子 (薬-製薬1)

[連絡員]

山本資治 090-9760-3424

谷村一成 090-7033-7253

-----火打・妙高PW

日程: 10月6日~7日 1泊2日 (予備1、非常1)

山城: 火打山、妙高山

目的: 秋の妙高高原の紅葉を楽しむ。日本シリーズに向けて応援の体力をつける。

行程: 1日目 (10月6日)

金沢大学 == (車) == 笹ヶ峰登山口 ---- 富士見平 ---- 高谷池ヒュッテ (泊) ---- 火打山 (往復)

2日目 (10月7日)

高谷池ヒュッテ ---- 黒沢池ヒュッテ ---- 妙高山 ---- 黒沢池ヒュッテ ---- 富士見平 ---- 笹ヶ峰登山

口 == (車) == 金沢大学

メンバー

L 日向弘幸 (医-保健2) sL 竹内雅幸 (法-法2) 医療 森本達也 (工-機械2)

深作亮太 (工-人機2) 渡 洋子 (医-保健2) 古田弥生 (教-学校2)

池田幸平 (工-人機1)

連絡員 西 大輔 090-9442-2393 松山文枝 090-9446-1810

-----雲取山PW

[山城] 奥秩父

[目的] 紅葉の季節こそ山へ行こう。上回生との交流山行。

[日程] 11月2日(金)、3日(祝) 予備日4日(日) 前夜発1泊2日予備1非常1

[行程]

0日目 金沢 = (夜行バス) = 新宿

1日目 新宿++++立川++++奥多摩 = バス = 鴨沢 --- 堂所 --- セツ石小屋 --- ブナ板 --- 奥多摩小屋 (幕営)

2日目 奥多摩小屋 --- 小雲取山 --- 雲取山 --- 奥多摩小屋 --- セツ石小屋 --- 鴨沢

[メンバー]

L 竹内雅幸 (法-公シス2) sL 小倉 亮 (法-法) 医療 森本達也 (工-機械2)

古田弥生 (教-学校教育2) 池田幸平 (工-人機1)

[連絡員] 谷上 望 (090-944-4969) 日向弘幸 (医-保健2)

-----冬山合宿

[目的] 冬山の技術を確認・修得する。冬山を楽しむ。

[目的地] 富山県利賀村・金剛堂山

[日程] 12月26日~28日 予備12月29日 非常12月30日

[行程] 26日 金沢 = (バス) = スノーバレー利賀 --- 栃谷登山口 --- 1346mピーク --- 小屋 (幕営)

27日 小屋 --- 1451mピーク --- 前金剛 --- 中金剛 --- 1451mピーク --- 小屋 (幕営)

28日 小屋 --- 栃谷登山口 --- スノーバレー利賀 = (タクシー) = 八尾+++富山+++金沢

[メンバー]

cL 山本資治 (工-人機3) SC 谷村一成 (工-人機3) 医療 西 大輔 (工-人機3)

吉森幸世 (文-人間3) 竹内雅幸 (法-公シス2) 森本達也 (工-機械2)

深作亮太 (工-人機2) 古田弥生 (教-学校教育2) 池田幸平 (工-人機1)

岩田奈穂子 (工-物化1) 荻田真憲 (工-土建1) 松本瑞恵 (経-経1)

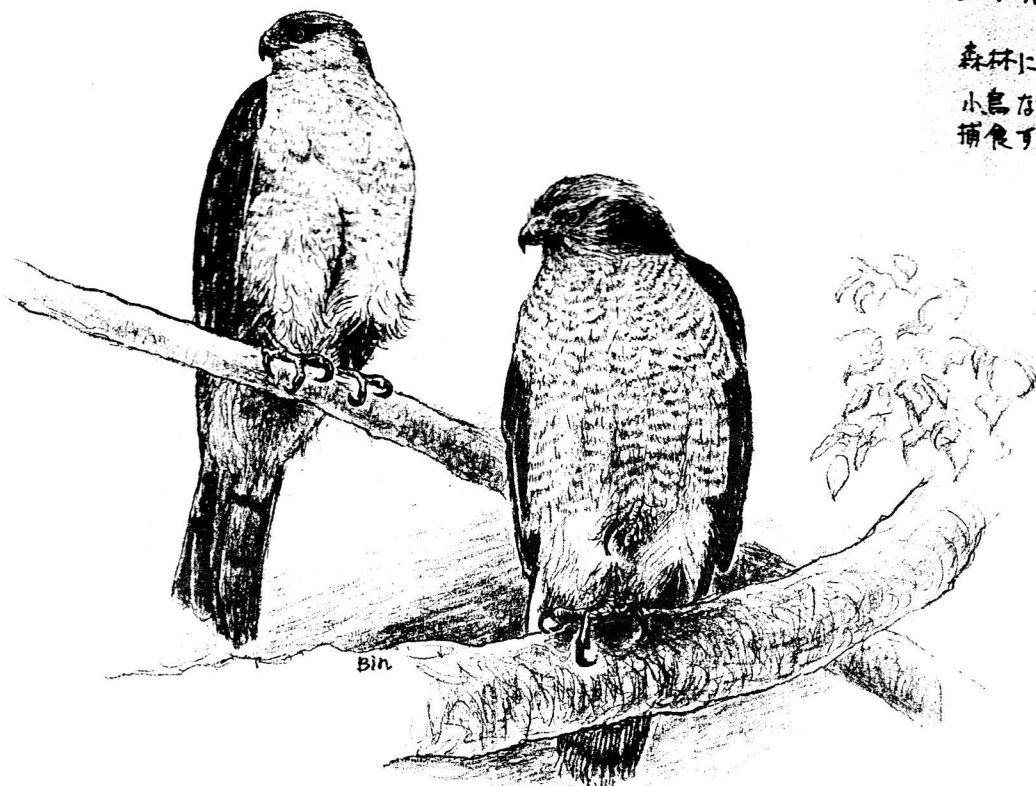
飯田 聡子 (薬-製薬1) 伊藤亜希子 (理-地球1) 加藤夕佳 (文-文1)

[連絡員] 久原宗仁 (文-史3) 090-3130-7681

河原一美 (教-美術3) 090-2830-4082

ハヤカ
右ガメス
左ザオス

森林にすむ。
小鳥なむを
捕食する。



OB会報「やまざと」15号
(' 0 1 冬号)

発行日 平成14年2月
発行者 奥名 正啓
編集責任者 舟田 節子
印刷 プリントショップ多田

金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会
事務局 ☎920-0911 石川県金沢市橋場町10-49
☎076-222-9288 (舟田 節子)
E-mail settyan-f@muc.biglobe.ne.jp
URL:www02.u-page.so-net.ne.jp/pa2/ma-okuna/kuwv/

奥名会長 E-mail ma-okuna@pa2.so-net.ne.jp
名倉名簿担当 E-mail nag@kso.njk.co.jp

振込口座 郵便局 00780-3-14120 金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会
" 北国銀行本店 普223703 金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会